2024年度 ドフチ市民活動団体助成事業 活動成里報生書

2024年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書						2025/9/12
団体名	NPO法人しん	んしろドリーム荘	活動タイトル	プログラミング学習	「困窮の連鎖を断つ事業	
	望ましい社会状況および団体のビジ	ョン(社会的役割と活動基盤)		■活動風景		
●地域の望ましい 社会状況(ビジョン)	当団体で貧困家庭の子どもの学習支援を行う中、ある生活保護家庭の子どもから「なぜ努力しなければならないの?、家の人は働いていないけど何も困っていないよ。」と言われたことは衝撃でした。 ていないよ。」と言われたことは衝撃でした。 困窮者への直接的支援は必要ですが、ともすると過剰支援となり当事者の回復力を削いでしまうことがあるのではないかと感じた次第です。 そこで本助成事業のビジョンとしては、貧困家庭の子どもの回復意欲を高め、親亡き将来に向かって貧困の連鎖を断つことをめざします。 望ましい社会情勢は、このような貧困対策が不要な希望に満ちた社会となることです。					
●団体の社会的役割 (ミッション)	このような背景より、当地域新城市には、福祉のまちづくりを担うNPO法人は当団体だけであるにも鑑み、行政では成し得ない公益事業を担うことが社会 的役割と考えます。 そこで、行政の行う不特定多数への施策では、どうしても取りこぼれてしまう者に対して、当団体は、一人も見逃さないことを役割として活動することに心掛け ています。そのためには、専門性の確保とともに、当団体が持続的に社会的役割を担えるように組織基盤を強化することにも本助成を活用したいと思います。			検定1級合格証 を手に喜ぶ子ども 達		
●団体の活動基盤	●物的資源:目的達成のための必要最小限の物があればよく、再 ●活動資金:会費、寄附金、自主事業収益といった自主財源の ●情報:Webに溢れる情報から正しいDataを仕分けます。その中	資金を提供することを楽しみとし、自らは何も見返りを求めない「尽くして 利用など頂き物にご縁が続き最良と考えます。 確実性を向上させることを基本とします。その上で、補助金・助成金にで最も重視するのは、当事者からの本音の声であり傾聴技術も鍛えまな充し、フォローアップしながら子ども達の環境改善に務めていきます。	挑戦します。			
■活動報告		■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)				
の連鎖を止める活動につ施、毎週火・木、17~1 ②ジュニア・プログラミングは、サーティファイ・ジュニア で1人不合格であったが、 ③プログラミング教室を居に、フリースクールの講話を ④本活動の基盤強化の	8時、30日間実施した。 検定に合格することで、子どもに自己肯定感を育てる活動について プログラミング検定の4級から1級まで全員が挑戦した。結果、2級 1級は全員が合格し、自己肯定感を高めた。 場所に仕立て、悩みごとを引き出し、保護案件を感知するととも を体験させる活動では、高校生が直接話す機会を設けた。 ために、NPO法人ゆずりは学園と貧困家庭の子どもが抱える問題の 策を深化させる活動では、不登校学生を全国から受け入れる「つげ	 ▶結果:感染症公欠を除いて全207日のうち、欠席は6日で、97%であった。 ②目標:ジュニア・プログラミング検定を受験し、4級100%合格、3・2す。 ▶結果: 7名中4級7名、3級7名、2級6名、1級7名が合格するであった。 ③目標:学校でも家庭でもない、ふらっと行ける居場所を、月~金の 	2・1級の合格もめざ 非常に良好な結果 シタ方100%開放 シ・ラポールを開放 との連携を強化す			
■事業を通じて得られたノウハウ		■望ましい社会状況を達成するための課題		■活動成果のアピールポイント(自由記入)		
あるため、無料の送迎が必須であることが確認できて、今後も実施して行きたい。 (2)PCゲームは、とかく悪者扱いされるが、ゲームをつくるプログラミングで資格が取れたり、大学受験科目にもなったプログラミングが身に付くという魅力は、子どもだけでなく親にも受け入れられることがわかった。 (3)他団体との連携では、連携が連携を生み、今まで具体的な交流の無かった高校とインターシップなどにも展開し、今後の協働が約束できたことは、大きな成果であった。)貧困地域における貧困の連鎖を懸念: 本事業は、平均所得が県下最下位の地域において、地域の貧困への同調圧力から貧困の連鎖が懸念される中、子どもに己有用感・やる気などの非認知能力を付けるに有効なプログラミング無料塾を行ったもで、今後も必要です。)無料塾の必要性: 学校の働き方改革に端を発する「部活動の地域移転」、「宿の廃止」などにより、無料の学習機会が剥奪され、無料塾など貧困家庭の子どもに対ての学習機会の支援は、ますます重要です。)ふるさと格差の解消: 子どもは、生まれる場所を選べません。貧困家庭の解消、学手段の確保、無料塾の整備など、過疎地域に生まれた子どもから、成長の機会をないことが肝要です。		■ 受益者の具体 I	る気などの非認知能力が高まり、生活区 鎖の予防 的な変化(自由記入) 後格者になり、資格認定証と合格バッジを	・用感、や 国第の連 を達成しました。 受け取った時には、自信に